

# コケ植物による環境調整型の建築外部空間の創出

コケ植物(蘚苔類)は国内に約2000種あると言われ、古くから和歌や国歌に登場するように、日本人に馴染みのある植物である。近年では、苔玉といったインテリア、建物の屋上や壁面でコケを用いた緑化も注目されている。北陸は低温多湿でコケの生育条件が良く、日本有数の壮大な苔庭も存在する。

本研究室では、コケ植物の熱環境調整効果や美観性を持つ建築外皮材料としての可能性に着目し、(1)都市に生育するコケ植物の熱・水収支特性に関する屋外実験、(2)人工被覆面に生育するコケ植物に関する調査と暴露試験、(3)コケ植物の景観心理に関する分析に取り組んでいる。



図 身近にあるコケ植物により生活空間を豊かにする

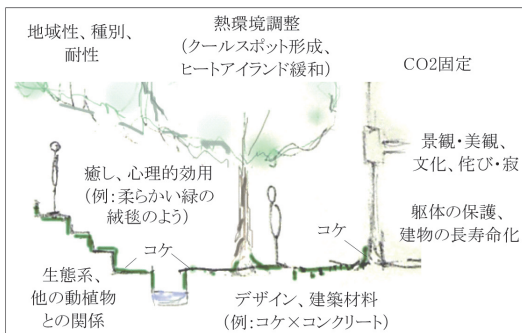


図 コケ植物を用いた建築外部空間と期待される環境調整効果

子供や学生を対象として、金沢の街や日本庭園を巡りコケ植物に触れる「コケツアー」を行っています。



**丸井 基史** 准教授

学部：環境・建築学部 学科：建築学科  
所属研究所：地域防災環境科学研究所  
博士(工学)。日本大学生産工学部ポストドクター研究員を経て、平成20年本学講師就任。平成26年現職。

**Keyword**

環境設計／ヒートアイランド／都市の緑